

# 東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

2015年3月号《No.9》

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002 東京都国立市東1-20-102

TEL 042-577-6181/FAX 042-577-5574

## 今月の聖句

その日、そのときは、だれも知らない、天使たちも子も知らない。父だけがご存知である。気をつけて目を覚ましていなさい、そのときがいつなのか、あなたがたには分からないからである。

マルコによる福音書13章32～33節

## 主題

国際会長	Isaac Palathinkal	「言葉より行動を」「今すぐやろう！」
アジア地区会長	岡野 泰和	「未来を始めよう、今すぐに」 「ひとつのアジア、世界はひとつ」
東日本区理事	田中 博之	「誇りと喜びを持って」
あずさ部長	望月 勉	「スピードをもって前に進もう」
武蔵野多摩会長	宮内 友弥	「共に学びあい、活かされる社会を目指して」

## ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

### 五つの誓い

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAにつくそう
1. 世界的視野を持って国際親善をはかろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずることをさたろう
1. 出席第一と奉仕第一とを旨としよう

## ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる。
5. 健全な交友関係を作り出す。
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

2月出席率80% 在籍者11名 出席者9名 メネット1名 ゲスト8名 にこにこ13300円

モンゴル基金 5000円 (渡邊ワイズ)

## フレッシュワイズとして

書記 渡辺大輔

先日(2/7)、東京YMCA山手センターで東新部主催のフレッシュワイズセミナーが行われ、参加対象者は入会3年以内のメンバーということなので参加してきました。

フレッシュワイズは全6名（東新部から4名、あずさ部から2名）の参加でした。ワイズについての講義を田中理事、YMCA についての説明を戸坂主事が、最後には参加者全員でのフリートークと 13:00～17:00 の長時間でしたがあっという間に時間は過ぎていきました。セミナー後には伊丹亭で懇親会があり親睦を深めてまいりました。

本当に有意義な内容だったので、東新部・あずさ部にとどまらずフレッシュワイズがもっと参加できればよかったと思います。

また現在のワイズの年齢構成が逆三角形の形で20～30代が極端に少ないこと、東京 YMCA のプログラムで20～30代が継続的に参加できるプログラムがあまりないこと、が気になりました。ワイズ・YMCA とともに現代の青年たちが積極的にかかわれるような環境作りが必要なのではないかと個人的に考えさせられました。

#### 《告知》

モンゴル応援ツアーの詳細が決まってまいりました。

2015年6月24日～28日の4泊5日です。

今年の夏に行われるAYCへもモンゴルからのユースが参加を予定しております。

応援ツアーの詳細については後日チラシにてお知らせいたします。

## 2月例会の様子

日 時 2月4日19時（第2水曜祝日の為繰上げ） 場 所 西東京センター

司 会 清水ワイズ 聖書・祈祷 山口ワイズ 受付渡邊・山本ワイズ

ゲスト ミエテック オコルスキー・マリヤ夫妻（ワルシャワクラブ）大野・神谷ワイズ（西クラブ）

服部会長・藤江ワイズ（たんぼぼクラブ）小山会長（サンライズクラブ）

ゲストスピーカー 西クラブ会長 木原 洸ワイズ

#### 卓話 船舶と環境問題

大学の文化祭でホバークラフトをつくり成功しました。これで私の人生行路が決まったようなものです。まだホバークラフトが何なのか定かではなかったころです、運輸省船舶技術研究所に行き設計法や資料文献など手に入れました。そして成果を報告に行ったところ、来年の卒論製作に来いということになり、次は公務員試験を受けさせられ、ついに1970年から10年間ホバークラフトの研究をしました、主に騒音対策です。飛行機のプロペラで走り、もう一つは国から船舶は重油それも最低Cクラスの重油を使えと決められました。洋上でいくら煤を撒き散らしても・・・ということでしょうか。そのため振動と騒音に船員は悩まされ続けていました。その解決に頑張っていたのですがついに観光用には使えても運輸形態の中に組み込めないという当時の学者の結論となりました。

そこで船舶の環境問題へと舵を切ることになりました。

船は国から国へ国際的に移動します、ですから一国の法律では舵取りは決められません、国連の機関IMO（国際海事機関）で船の構造、装備、運航などが決められており、内航船は各国でそれに準じて実施されています。この機関の発端はタイタニック事故で先ず安全から出発しています。本部はロンドンのあり加盟国は165ヶ国63NGO加盟しております。

IMOは二つの委員会から成り一つはMSC（海上安全委員会）とMEPC（海洋環境保護委員会）です。それを守らせるために世界に11カ国の船級協会を作りIMOの規則基準にしたがっているか検査して

います。

どの船級協会が審査を受けるかは船主の自由ですが協会の信用度によって保険料に影響してきます、ちなみにNK(日本海事協会)の信用度は世界一です。

MEPC(船舶による環境問題)は大きく分けると大気汚染・海洋汚染・生態系汚染の三つ有り事故時・航海中・解体時にいろいろの問題が生じます。貨物輸送機関のCo2排出、事故による油流出、ごみし尿厨房風呂など汚水の海洋投棄(陸上の処理施設を使用すればコストがかかるため)、船底の貝類の付着防止塗料。生態系破壊はバラスト(空舟は不安定なため海水を入れ重心を下げる)に使う海水を他国での放水によりバラストに含まれたその土地に無い生物の発生がおきている。

解体時には大量の汚れた油やアスベストが大量に出る。人間は海をごみ捨て場に、きれいな海をどんどん狭くして居る。木原さんは汚れた海を夢の島のようにするために少なくともこれ以上汚さないようにがんばってこられたと感じた。

それには環境負荷低減装置、陸上と同じ太陽光・風力発電やゾウハ造波抵抗削減、推進効率やプロペラ効率改善やスーパーエコシップ、動力にはガスタービン推進にはポッドプロペラなどの開発が待たれる。

現在氏が一番注視しているのはリサイクルシップ(船舶の解体)で貴重な鉄資源は95%リサイクルされているがその過程に多くの問題が生じている。

廃船処理は作った造船所のおドックでされることになっていますが、この写真はグーグルから撮った写真で群がっているのは解体を待つ船です。満潮時岸に近い順に乗り上げ手作業で人がもてる重さに刻まれ処理されます。携わっているのは中学生くらいの学校に行けない子供で、怪我をしてもすぐ補給されるという劣悪な状態で、世界の86%はバングラディッシュとインドです。

ソマリア行きの海賊にしても内戦で似夜無政府状態の所に外国船の廃棄物不法投棄です、抗議する漁民たち物品など甘い汁を与え、味を占めた漁民たちの海賊行為に至ったのです。

氏の訴えは終わるところを知らなかった。益の享受にはそれと同等の損害が生じる、それを補うのは享受者だと法的にも約束されていながら、それをかいくぐろうとする。経済戦争でかたづけられる事だろうか。

体に優しい春に向かっています。闘病生活中の笠利ワイズに様子をお尋ねしました。第一声は「病気のことは書きたくないよ」病気の意識から健康人、園児たちへの思いと活力の充実に向かわれています。

## 巣立ち

園長 笠利 和彦

バレンタインデーにチョコレートが売れるのは、50年程前から始まった日本独特の風習?で、その業界が仕かけた、たぐみなキャンペーンだったのです。元々2月14日はカトリック教会の暦で「聖バレンタインの日」となっていて、この頃から鳥達がペアで巣づくりを始めることから、愛や愛の告白などと結びつけられたと言われていました。

他方、日本語の「育む」という言葉は、親鳥がひなを羽の下に抱いて育てること、つまり「羽含む」に由来しています。

お家の方々に生まれ、幼稚園でも互いに成長し合ったゆり組の子ども達は、もうすぐ巣立ちの日、卒園の日を迎えます。卒園式また卒業式という言葉には、別れのイメージが付きまとい、白いハンカチが頭に浮かぶかもしれません。しかし私は自分自身が学生、生徒として経験した卒業式での自らの気持ちを思い出し、また参列した小中学校の卒業式、そしてたび重ねたゆり組の卒園式での子ども達の様子を見ると、それ程別れのさみしさを感じないのです。むしろそこには、いまだ見ることはできないけれど、人生

の次なるステージへのおぼろげな希望、そして、そこにチャレンジしようとする自立した自己へのほのかな自信さえ感じることができるのです。

ゆり組のみんな、卒園おめでとう。かりに目を赤める大人がいたとしても、それは君が立派に大きくなったことを喜ぶうれし涙なのです。

## <YMCA 便り>

村山 達哉

3月となりました。日によっては、陽の光が心地よくぼかぼかとした暖かさを感じることもありますが、まだまだ寒さの厳しい日が続いています。体調を崩しやすい季節となります。どうぞご自愛ください。

さて、「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」とはよく言ったもので、新年を迎え、あっという間に3月に入った感じがしております。皆様もお忙しい日々をお過ごしでしょうか。

3月は卒業の季節です。また新しい門出の時期を迎える時期でもあります。今年度も、西東京センターから多くの卒業リーダーが、社会へと巣立っていきます。YMCAでの活動を通して経験したこと、仲間との出会い、これまでに培ってきたものを糧に、社会へと羽ばたいていってほしいと願っています。一方で、春のプログラムに向けた準備も大詰めとなって参りました。ボランティアリーダーたちはセンターへと集まり、ミーティングが連日のように行われています。3月末に実施するプログラムのため、経験を積んだ大学4年生のほとんど参加出来ず、大学3年生以下のリーダーたちが、経験値の少ない部分を補い合いながら助け合い、キャンプに向かっていきます。こういった経験を通して、それぞれのリーダーたちは成長していきます。

次のステージへとそれぞれ羽ばたいていくリーダー、プログラム実施に向けて努力し続けるリーダー、西東京センターに集う多くの若者たちを、これからも応援いただければと思います。今月もお支え、よろしく願いいたします。

### <西東京センター及び東京 YMCA の主な予定>

- 3/1 春季宿泊プログラム 打ち合わせ会 / 2014年度卒業リーダーを祝う会
- 3/6-8 スノーマンキャンプ
- 3/11 東日本大震災4周年 復興支援活動報告会及び街頭募金
- 3/12-15 春季スキー実技リーダートレーニング
- 3/22 中高生グループ活動「TeenS」3月例会
- 3/24-26 春季日帰りプログラム「わんぱくキッズ」
- 3/26-30 春季宿泊プログラム「シュプール・ユースキャンプ」/「ユーススキーキャンプ」

三月のハッピーバースデー 山口直樹ワイズ 3月28日 山本幸子メネット 3月5日

三月例会 会員増強の視点から若者たちにも参加を呼びかけ出席しやすい土曜日 3月14日 17時です。

卓話 ベイサイドクラブ 工藤 大丈会長 会員増強に向けての視点（ベイサイドクラブ立ち上げの苦労話から）

司会 渡邊ワイズ 聖書祈禱 山口ワイズ 受付 松田ワイズ スタンバイ石丸・宮内・松田ワイズ

さくらフェスティバルバザー用献品のお願い 献品は3月第一例会時にご持参ください。衣類は新品のものを御願いたします。